

# 「親日」って何だろう？

— 台湾映画『海角（かいかく）七号』に見る対日意識 —

講師：原口直希（はらぐち・なおき）

とき：10月25日（日）・11月7日（土）

昼2時～4時

ところ：公民館 地下ホール

\*映画「上映会」ではありません\*

定員：25名（申込先着順）

申込：10月9日（金）朝9時～

公民館 ☎ 572-5141

主催：公民館十一橋大学言社研

近年、台湾人の「親日」が様々なところで言われています。しかしそもそも「親日」とはどういうことなのでしょう？

2008年公開の魏徳聖(ぎとくせい)監督の映画『海角七号』は、台湾映画史上最大のヒット作であると同時に「親日」映画と言われ、その日本表象が多くの議論を巻き起こしてきました。他方、魏監督は様々な場所で、日本と台湾が対等であることへの思いを口にしています。その思いは『海角七号』にどう映し出されているのでしょうか？そしてそれは私たちの思う「親日」と合致するのでしょうか？

この講座では台湾の歴史や文化、社会調査の結果なども参照しつつ、魏監督の日台の対等性への思いが映画にどのように反映されているのかを読み解いていきます。台湾映画、そして台湾人や台湾という存在について一緒に考えてみましょう。



一橋大学  
院生講座

国立市内の一橋大学では、研究者をめざす大学院生たちが日々研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。